

ヤブがかぶっているが、これが地図に記されている道のようなものである。途中、土管でつくった小さな砂防ダムのようなものがあった。

更に下降を続けるが、さして変化もなく、12時40分、鬼ヶ煩本流と出合い、下降を終了とする。この沢も、杉の倒木が多くて、歩きづらかった。

(記 1)

[タイム] 下降開始(11:50)→下降終了(12:40)

鬼ヶ煩沢支流ヲの沢左俣

1989年5月28日

L

1

11時20分下降を開始する。目的の沢は、ヲの沢(仮称)の左俣で、兩岸とも源頭まですべて伐採されている。前日ヲの沢(仮称)右俣を下降した時に、ずっと見通しがきいていたので、何も無いことを確認している。ただ下降路に使用するだけが目的の行動である。

刈り払われた枝を踏み越えて、10分程で沢へ。水量は少なく、刈り払われた枝に覆われているので、歩きづらい。あまり歩きづらいので、沢から上がって、途中から作業用の踏跡を利用する。前日下降した右俣に出会うと、林道はすぐそこであった。25分程の下降であった。

この沢の流域は、ただいま造林中である。二俣付近左岸では、植林作業が進められていた。

(記・

[タイム] 下降開始(11:20)→下降終了(11:45)

鬼ヶ煩沢支流ヲの沢右俣

1989年5月27日

L

天気晴。標高約760mの小ピークから南西に向かって下降を開始する。源頭部はヤブが薄く、簡単に沢に降りることができた。沢は枝沢を合わせながら、少しずつ水量を増してゆくが、それでも小沢程度である。右岸のほとんどは伐採され、沢は枯枝で埋まっている。途中から造林のための踏跡が所々に出てくるようになる。この沢の流域は、現在造林中。地元の人たちが作業に当たっていた。10時20分、鬼ヶ煩林道に着く。

(記・

[タイム] 760mピーク(9:45)→ヲの沢右俣源頭(9:50)→林道(10:20)

鬼ヶ煩沢支流ワの沢

1989年5月27日

L

天気晴。鬼ヶ煩沢本流の砂防ダムの手前に、左岸から感じの良い沢が入っている。さっそく林道から本流に下降して遡行にかかる。

出だしは2m, 1mと2つの滝が連続する。この沢は当りかなと思ったのはつかの間で、すぐ右岸が伐採地となって、枯枝が沢を埋めている。その先はだいぶ昔の造林地で、左右とも杉林となっている。ヤブがひどいのと、手入れがされていないのとで、杉の倒木が多く、それが沢を覆っていて歩けるものではない。悪戦苦闘の末、何とか源頭にたどり着く。あとは急な斜面を10分程やぶこぎをして、11時30分、標高約750mのピークに到達する。

(記)

[タイム] 出合(10:35)→源頭(11:20)→750mピーク(11:30)

鬼ヶ煩沢支流カの沢

1989年5月27日

L

天気晴。つくばの西さんと合流して八溝山系の沢に入ってみようということで、今回は近津川支流の鬼ヶ煩沢流域に足をのぼしてみた。

山本不動尊の手前で右折し、鬼ヶ煩沢にそってのびる林道を一番奥まで入る。林道は2万5千分の一の地図に示されている所より更に奥までのび、砂防ダムの所で終点となっている。

身支度を整えて沢に入るが、すでに上流部まで来ているので、水量もさほどでない。砂防ダムを乗り越え、杉の枯枝が沢を覆い、水量も極端に減ってしまう。すぐに二俣となる。本流は左の沢だが、まずは右のカの沢(仮称)へと入る。

カノ沢(仮称)の右岸は伐採地となり、沢は明るい。しかし、枯枝がつまっていた歩きづらい。右岸の樹林帯から入る小沢の方が枯枝もなく、よっぽど沢らしい。出合から7分出二俣となる。2:1で左俣の方が水量が多い。左俣に入ると、5分程で水は濁れ、沢は終りとなる。出合から15分の遡行であった。同じ沢を引き返す。

(記)

鬼ヶ畑沢支流ルの沢

1989年5月27日

L 郎

天気晴。11時50分下降開始。5分程で沢に水が出てくる。この沢の両岸にはだ
いぶ前にスギやヒノキが植林されていて、うっそうとしており、沢にはヤブがか
ぶさっている。

5分程下った所で昼食をとり、下降を再開すると2m程の小滝が出てくる。こ
の後左岸には比較的幅の広い造林のための作業路が出てくる。至る所寸断されて

